

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

平成 27 年 6 月 15 日現在

機関番号：32613

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2011～2014

課題番号：23560771

研究課題名(和文)近世ヨーロッパにおける王権と地域勢力の角逐の場としての都市・国土インフラの整備

研究課題名(英文)Planning of urban and territorial infrastructures by competitive cooperations of the sovereignty and local powers in the Early Modern Europe

研究代表者

中島 智章 (NAKASHIMA, Tomoaki)

工学院大学・公私立大学の部局等・准教授

研究者番号：80348862

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,800,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、あるハードウェアの成立には様々な立場の人々と思惑が関わっていること、ハードウェアにもソフトウェアとしての側面があり、それが他の文化や社会へも影響を与えることがあることを前提として、研究対象を単体の建築から都市インフラや国土インフラへと拡大し、とりわけ、王権と在地勢力のせめぎ合いの中から成立した都市インフラ、国土インフラを取り上げた。これらのインフラ整備にあたっては、王権の意向が強力に働きながらも在地勢力が巧みにそれに乗じようとする姿もみられ、しかし、全体としては絶対王政を経て中央集権的な国民国家が徐々に姿を現してきた近世ヨーロッパの姿が垣間見られるのではないかと考える。

研究成果の概要(英文)：In this study, on the assumption that the establishment of some hardware involves a lot of persons on various positions and their speculations, that the hardware has an aspect as software, and that it will affect also to other cultures and societies, we expand our research subject from a single building to urban and territorial infrastructures, in particular, which founded by competitive cooperations of the sovereignty and local powers. It was the sovereign side that promoted these infrastructure construction, but local powers also skilfully intervened in these affairs. Generally speaking, we clarify in the formation of these infrastructures that the centralised nation-states gradually emerged after the Ancien Regime in the Early Modern Europe.

研究分野：西洋建築史

キーワード：都市インフラ 国土インフラ 築城 運河

## 1. 研究開始当初の背景

(1) 平成 16 年度から同 18 年度まで、筆者は若手研究(B)として研究課題「アンシアン・レジーム期の王権の文化・社会とその文化資源としての建築」を進めてきた。その核心は、社会の中で文化が様々な顕れ方をするなかで、建築はその一つであるだけでなく、絵画・音楽など諸芸術の形をとった文化、服装・立居振舞などの日常風俗、あるいは大きな事件の記憶と密接に結び付いているという意味で、要の位置にあるという認識である。そして、人々の様々な活動が常に関わる場ゆえにその共通の記憶を最もよく体現するものとして、建築を人類の生活に不可欠かつ後世に伝えるべき貴重な資源と捉えたのである。

(2) また、平成 19 年度から同 22 年度まで、若手研究(B)として研究課題「アンシアン・レジーム期におけるソフト・パワーとしての王権建築とその様式伝播」を進めている。この研究では、建築については、一方では、ある社会の反映として現れた建築のあり方がひとつの「様式」として結実し、それ自体が絶大な「ソフト・パワー」となって、その「様式」を生んだ社会とは異なる性質を持つ社会に根付いていくという側面も見逃すべきではないものにとらえ、ある社会・文化が生み出した「文化資源としての建築」がそれ自体独立した生命を持つソフト・パワーとして結実し、その影響が他の社会・文化にいかにかん及んでいくのかという点を主要テーマとした。

(3) 一方、平成 20 年度から同 23 年度まで進行中の基盤研究(A)「都市インフラストラクチャーの史的比較研究」に研究分担者として参加し、オランダや南フランスの諸都市を対象とする研究活動の一部を担当して、建築レベルを大きく上回る規模のハードウェアへの幅広い視点や知見を得ることができた。また、この研究チームの枠組みの中で本応募研究課題の研究分担者である伊藤毅氏、加藤玄氏と共同研究を進めており、問題意識のすりあわせと深化を進めた。

(4) 以上から、あるハードウェアの成立には様々な立場の人々と思惑が関わっていること、ハードウェアにもソフトウェアとしての側面があり、それが他の文化や社会へも影響を与えることがあることを前提として、本研究では研究対象を単体の建築から都市インフラや国土インフラへと拡大し、とりわけ、王権と地域勢力のせめぎ合いの中から成立した都市インフラ、国土インフラを取り上げ、絶対王政を経て中央集権的な国民国家が徐々に姿を現してきた近世ヨーロッパの姿をインフラという視点から明らかにしていく。

## 2. 研究の目的

(1) 本研究はヨーロッパの近世、すなわち、

15 世紀～18 世紀の都市におけるインフラストラクチャー、および、国土開発のためのインフラストラクチャー(以下、それぞれ都市インフラ、国土インフラと呼ぶ)を対象とし、これらのインフラが、「王権」(本研究では中央政府の権力のことをこのように呼ぶこととする)と地域勢力の微妙かつ絶妙なパワー・バランスの上でどのように成立したのかという観点から、ハードウェアとしてのインフラとソフトウェアとしての社会や制度の関連性を明らかにしていくことを目的とする。本研究の成果は、21 世紀を迎えて先進諸国が抱える中央と地方の富の再分配や地方自治の問題に対しても有用な知見をもたらすものとする。

(2) 具体的には、オランダ・フリースラント 11 都市の運河によるネットワークや南フランスのミディ運河による南仏諸都市のネットワークの他、ヨーロッパ諸国の国境地帯に営まれた要塞都市による国土防衛のためのネットワーク(フランスの北部国境地帯、南部国境地帯、ベルギー、オランダなどの軍事計画都市群)、それによって軍事的機能から解放されて居住などのための機能性を高めていった城塞・城館や都市のネットワークを研究対象として取り上げる。

## 3. 研究の方法

(1) 本研究では以下のように主要研究テーマ二つといくつかのサブテーマを配する。これらのテーマの共通点は、都市インフラが国土インフラを取り扱っていることと中央権力と各地域勢力の関係に焦点をあてることである。

### 運河による都市間ネットワーク(港と運河のテーマ)

南仏ミディ運河

フリースラント 11 都市

要塞都市による防衛網構築のためのネットワーク(軍事施設のテーマ)

フランス＝ベルギー間国境地帯の要塞都市

フランス＝スペイン間国境地帯の要塞都市

a) 軍事的機能から開放されたあとの城塞・城館(ロワール川流域の城塞群、ルーヴル城塞など)

b) サン・ゴバン城塞跡に設置されたガラス工場を中心として、運河網などによってネットワーク化した王立ガラス製作所(現サンゴバン・グループ)の工場ネットワーク

(2) では、南仏ミディ運河に注目し、国土インフラとしての目的、それを建設・維持するための技術、関わった人物や団体を明らかにしながら、複雑に絡み合った王権と地域勢力の関係を読み解く。では、運河で結びついたオランダ・フリースラント 11 都市のネットワークを中心に、現地での実測調査、

および、史料調査から各都市の都市的特徴、都市インフラの技術と技術者の実際などを浮き彫りにし、各都市における様々な団体の関係を明らかにする。

(3) このように、本研究は「港と運河」、および、「軍事施設」という二つの主要研究テーマがある。研究遂行にあたっては、各研究担当者の専門と関心に基づいて、以下のような国・地域別の研究チームを組み、それぞれ現地における実測調査や史料調査に臨んだ。

ミディ運河関連(港と運河のテーマ)：中島、伊藤、加藤

フリースラント11都市関連(港と運河のテーマ)：中島、伊藤

フランス国境地帯の要塞都市関連(軍事施設のテーマ)：中島

#### 4. 研究成果

(1) 本研究は、ある社会・文化が生み出したものであると同時に、ある社会・文化に独自の影響を及ぼしていくそれ自体独立した生命を持つソフト・パワーとしての「文化資源」としての建築の範囲を、さらに大規模な都市インフラや国土インフラにも及ぼそうとしたものである。その特色や意義、成果として次の3点を挙げる。

(2) まず、都市インフラや国土インフラを「文化資源」ととらえようとするならば、それらに対する史的考察は不可避であるが、その多くは土木構築物であり、土木の分野においては、篠原修氏らの一連の史的考察などの少数の例外を除けば、それほど主要な視点ではない。それゆえ、インフラに対する史的考察は本研究の独創点である。

(3) 次に、本研究では研究分担者として、わが国の都市史のみならずキューバやベトナム、オランダなどの都市史にも国際的な関心を長年持ち続けている伊藤毅氏を迎え、国際的な広がりの中で近世のヨーロッパ各国における都市インフラ、国土インフラをとらえたことが挙げられる。

(4) さらに、研究分担者として、政治や社会などの諸制度に対して主要な関心を持つ西洋史学の分野から、南西フランスの「バステード」と呼ばれる中世新都市というハードウェアにも大きな関心を寄せて研究を続けている加藤玄氏を迎え、都市インフラ、国土インフラという、技術の結晶としての「モノ」たるハードウェアからの視点と、当時の王権と地域勢力の関係性や社会や政治の諸制度といったソフトウェアからの視点のバランスをとり、かつ、有機的に融合させることが可能となったことも成果として挙げることができるだろう。

(5) こうして、あるハードウェアの成立には様々な立場の人々と思惑が関わっていること、ハードウェアにもソフトウェアとしての側面があり、それが他の文化や社会へも影響を与えることがあることを前提として、王権と在地勢力のせめぎ合いの中から成立した都市インフラ、国土インフラを取り上げ、これらのインフラ整備にあたっては、王権の意向が強力に働きながらも在地勢力が巧みにそれに乗じようとする姿もみられた。また、ミディ運河の開削やルーシヨン地方ペルピニャンの築城整備、ミディ運河からのルーシヨン運河延伸の試みなどにみられるように、このようなインフラ整備が人工的に国土の領域を設定、または再設定するのに大きく貢献したことも明らかにした。全体としては絶対王政を経て中央集権的な国民国家が徐々に姿を現してきた近世ヨーロッパの姿が、ここからも垣間見られるのではないかと考える。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計0件)

〔学会発表〕(計15件)

「フランスの各王朝の永続性重視の考え方と建築保存」、中島智章、『時間のなかの建築リノベーション時代の西洋建築史』、招待講演、2014年11月

“Les ventes des lots des remparts de la commune de Capestang et l'aménagement urbain”, Tomoaki NAKASHIMA, *Histoire de territoires dans le Languedoc médiéval et moderne*, 招待講演(仏語), 2014.10

*Histoire de territoires dans le Languedoc médiéval et moderne*, Takeshi ITO, organization and introduction, 2014.10

「ペルピニャンの都市築城の近代化改修とミディ運河をめぐるフランス王国工兵の動向」、中島智章、『日本建築学会学術講演梗概集』F-2 建築歴史・意匠 2013、査読無、pp.775-776、2013年8月

「方位と軍事都市-近世のフランス・スペイン間の国境地帯の都市築城-」、中島智章、『距離と方位から捉える都市と住まい-どこに「都市」は成立するのか』(日本建築学会 2013年度大会(北海道)研究集会資料)、招待講演、2013年8月

“Modernisation of the urban fortifications of Perpignan and Supervision of the Canal Midi by French royal engineers”, Tomoaki NAKASHIMA, *Territory, Society, and Thchnology* (Proceedings of the France-Japan Research Cooperation Meeting Monday 11th March 2013 @FRA.M.ESPA), Toulouse, 招待講演(英語), 2013年3月

"Between Savoy and Gascony: A Testament of Grailly", Makoto KATO, *Territory, Society, and Thchnology* (Proceedings of the France-Japan Research Cooperation Meeting Monday 11th March 3013 @FRA.M.ESPA), Toulouse, 招待講演(英語), 2013年3月

*Territory, Society, and Thchnology* (Proceedings of the France-Japan Research Cooperation Meeting Monday 11th March 3013 @FRA.M.ESPA), Takeshi ITO, organization and introduction, Toulouse, 2013.3

「1665年10月の王立鏡面ガラス製作所設立勅許状と宮殿建設事業」, 中島智章, 『日本建築学会学術講演梗概集』F-2 建築歴史・意匠 2012、査読無、pp.325-326、2012年9月

"Reorganization of territory in the Low Countries by the construction of the urban fortifications in the 17th century", Tomoaki NAKASHIMA, *Proceedings of International Symposium: Space, Culture and Regeneration of Cities in History, From the Viewpoint of International Comparison of Territory and Infrastructure*, 招待講演(英語), pp.134-141, 2012.12

"Spatial History of Mountainous Territory in Japan", Takeshi ITO, *Proceedings of International Symposium: Space, Culture and Regeneration of Cities in History, From the Viewpoint of International Comparison of Territory and Infrastructure*, 講演(英語), 2012.12

"Power over Bastides and Mines in Medieval Languedoc", Makoto KATO, *Proceedings of International Symposium: Space, Culture and Regeneration of Cities in History, From the Viewpoint of International Comparison of Territory and Infrastructure*, 招待講演(英語), 2012.12

"The Sualem family and the origins of their hydraulic technology for the water supply of Versailles Gardens", Tomoaki NAKASHIMA, *Territory and Urban Settlement along Water Comparative Studies on Friesland and Other Areas in History*, 招待講演(英語), pp.53-58, 2012.9

*Territory and Urban Settlement along Water Comparative Studies on Friesland and Other Areas in History*, Takeshi ITO, organization and introduction, 2012.9

「ヴェルサイユ宮殿鏡の間における採光の問題と王立鏡面ガラス製作所の鏡の導入」, 中島智章, 『日本建築学会学術講演梗概集』F-2 建築歴史・意匠 2011、査読無、pp.717-718、2011年7月

〔図書〕(計2件)

『世界の城の歴史文化図鑑』, チャールズ・ステイーヴンソン(著)、中島智章(監修)、村

田綾子(訳)、柊風舎、2012年

『中世ヨーロッパの城塞 攻防戦の舞台となった中世の城塞、要塞、および城壁都市』, J・E・カウフマン/H・W・カウフマン(著)、ロバート・M・ジャーガ(作図)、中島智章(翻訳・監修)、マール社、2012年

〔産業財産権〕  
出願状況(計0件)

名称:  
発明者:  
権利者:  
種類:  
番号:  
出願年月日:  
国内外の別:

取得状況(計0件)

名称:  
発明者:  
権利者:  
種類:  
番号:  
出願年月日:  
取得年月日:  
国内外の別:

〔その他〕  
ホームページ等

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

中島 智章 (NAKASHIMA, Tomoaki)  
工学院大学・建築学部・准教授  
研究者番号: 80348862

### (2) 研究分担者

伊藤 毅 (ITO, Takeshi)  
東京大学・大学院工学系研究科・教授  
研究者番号: 20168355

加藤 玄 (KATO, Makoto)  
日本女子大学・文学部・准教授  
研究者番号: 00431883

### (3) 連携研究者

( )

研究者番号: